

スクールサポーター  
(臨床心理士)  
小林 真理

# じゅん・ら・ぼ

## 「じゅん」

### 「ユニバーシオン」

見えないものが見えてきた  
ときがはじまり

〜ICFのはなし〜

「あの子は何ができないの?」「  
どんな障がいがあるの?」

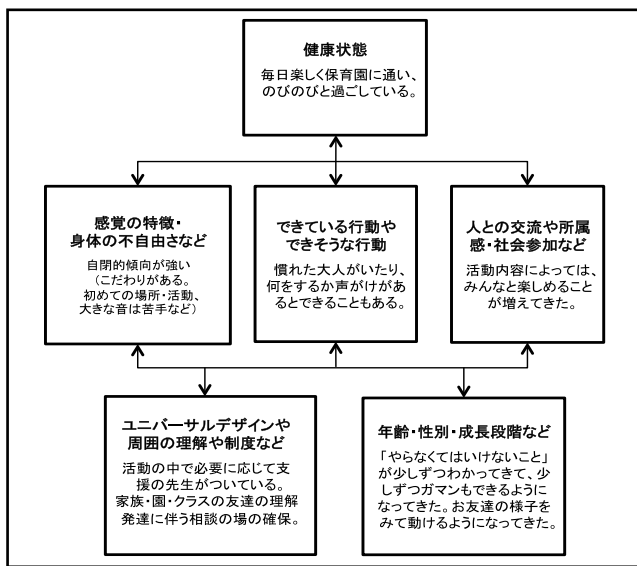
私たちの周りには、パッと見たり、短い時間だけ接したり過ごしたりするだけでは、障がいや日常生活を送る上で困難を持つているとは、全く見えないような子どもや成人の方もいます。

見た目で判断する、という表現は不適切かもしれませんが、目に見える障がいや困難がある場合には、一緒に過ごす際にどうしたらいいかがある程度予想がつき、そのように支援できたりサポーターしようとする人が多いはず。では見た目で判断できない、あるいは判断し

にくい場合はどうでしょうか。

一緒に過ごしたり、一緒に何かしたり生活したり、そういった時間を重ねることによってそれぞれが「何?」「どんな時に?」「どう困難があるのか?」「そのためどんな状況に陥ってしまったのか?」が見えてくることあります。このことは「見た目で判断する」という表現に合わせる、「言葉で判断する」と言いかえられるでしょうし、言動から見えてくることや言動によって気づくことも増えてくるのです。そうすると、「どうしたら一緒にできるか?」「どうサポートできるか?」「自分は自分でできるだろうか?」や「どうしたらいいだろうか?」「どうしようか、その子どもやその人に対して「ユニバーシオン」を向けながら必要な支援をしていく」ということが始められるのではないのでしょうか。本人に障がいや困難なことはあっても、できる活動が増えたり、人とのつながりが増えたり、社会参加の機会が増えたり、自己肯定感やモチベーションがあがったり、心身に健やかな状態で過ごせることに繋がっていくのです。

下の図は「自閉的な傾向が強い



自閉的傾向が強い子どもの特徴や状況・環境などをICF(国際生活機能分類)に当てはめた図

それぞれが総合的に絡み合っ、影響しあっているということがわかる。

幼児を例として挙げた場合のひとつのパターンです。「自閉的傾向が強い子ども」で、その特徴はあるものの、言動を見ると「できること」できないこと・支援があればできること「があったり、「友達と一緒に活動することや、仲間として位置づいている環境」があったり、「支援の先生がついている、周囲の人の理解成長に伴って相談する場」があったり、「本人の成長やモチベーション」によってできるようになってきていること・まだ難しいこと・本人の興味や関心など様々なことが総合的に絡み合っ

て、「本人が楽しくのびのびと生活を送る」ことができない、ということを表しているものです。一緒に過ごしたり接することで、専門的な知識のある・なしに関わらず、身近なことで私たちにできることが見えてくるのではないのでしょうか。障がいを理解する、と難しく考えなくても、「その子」「その人と一緒に過ごしたい」という気持ちなのです。見えてきたときがはじまりの始まりです。小さなことでも、見えてくることが多い1年になるといいですね。

## 中央公民館講座案内

●ホテル音羽の森  
フレンチ高柳雄輝シェフ  
料理教室

とき 1月29日・2月5日  
12日・19日  
18時30分～20時30分

定員 20名  
費用 材料費 4,000円  
(4回分)

※初めて受講する方優先

●初級パソコン教室(全5回)

とき 1月15日(水)・17日(金)  
22日(水)・24日(金)・29日(水)  
14時～16時

定員 20名  
費用 テキスト代 1,260円

対象者 いずれも町内在住者  
または在勤者

※1月6日(月)8時30分より、中央公民館窓口または電話で申し込みください。  
定員になり次第締め切ります。

【申し込み・問い合わせ】  
中央公民館

☎45・8446